



2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年5月15日

上場会社名 株式会社オークファン 上場取引所 東
 コード番号 3674 URL <https://aucfan.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 武永 修一
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員 経営管理部長（氏名） 杉山 真二郎（TEL）03-6809-0951
 半期報告書提出予定日 2026年5月15日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有（当社ホームページに動画掲載）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	2,643	9.6	△4	—	31	△74.1	△21	—
2025年9月期中間期	2,412	△1.9	95	△58.0	122	△47.9	50	△68.4

（注）包括利益 2026年9月期中間期 △59百万円（—%） 2025年9月期中間期 △38百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	△2.05	—
2025年9月期中間期	4.91	—

（注）2025年9月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。2026年9月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	7,192	4,048	56.3
2025年9月期	7,084	4,092	57.8

（参考）自己資本 2026年9月期中間期 4,048百万円 2025年9月期 4,092百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年9月期の連結業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,600	20.2	50	—	40	—	20	—	1.90

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) - 、除外 一社(社名) -

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(中間期)

2026年9月期中間期	10,813,700株	2025年9月期	10,813,700株
2026年9月期中間期	292,016株	2025年9月期	292,016株
2026年9月期中間期	10,521,684株	2025年9月期中間期	10,366,659株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当中間期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

決算補足説明資料は、第2四半期(中間期)決算短信開示後速やかにTDnet及び当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当中間期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 中間連結貸借対照表	6
(2) 中間連結損益及び包括利益計算書	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当中間期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、膨大な売買データとAI技術を活用し、流通の可視化・効率化を推進してまいりました。現在は、流通の担い手が価値を見出し、広げていく流通基盤の構築を目指しています。

各サービスを利用するクリエイター・SmallB(個人事業主)・副業等の流通の担い手を「Appreciator(アプリシエーター)」と定義しています。“Appreciate”には「真価を認める」「価値を高める」といった意味があり、価値を見出し、広げていく主体として位置づけています。こうした考えのもと、「We Are Appreciators」をコーポレートメッセージとして掲げています。

これまで「BtoB取引市場のDX化」を中核に、国内流通のデジタル化を推進してまいりました。国内のBtoB取引市場は約300兆円規模(※1)と推定され、そのうちEC化されていない取引は約200兆円に上るなど、大きな未開拓領域が存在しています。データを活用した流通の効率化・高度化を通じ、当該領域のデジタル化に取り組んでまいりました。

一方で近年は、こうした取り組みを基盤としつつ、事業構造の転換を進めております。Direct to Consumerに加えBusinessも含む「D2Xコマース」を新たな成長領域と位置づけ、中国を中心としたグローバルな生産・供給ネットワークを活用し、自社で商品企画・製造を行い、日本国内で販売するモデルへのシフトを推進しております。

海外事業においては、これまで義烏を起点とした越境流通や展示会施策等を通じてネットワーク構築を進めてまいりました。これらは市場開拓の面で一定の成果を得た一方、収益化には時間を要していることから、現在はより収益性の高い領域へ経営資源を集中する方針としております。

その中で、具体的な成果が顕在化しているのが、自社ブランド及びライブコマース領域です。自社ブランドでは「AP LAB(エーピーラボ)」に加え「KACHIKA(カチカ)」の展開を開始しており、中国の生産ネットワークを活用した商品企画・製造を行い、国内において個人向け販売及び法人向け卸を展開するモデルとして、「D2Xコマース」を推進しております。

また「NETSEA MallLive」は、当社が商品を仕入れ、ライブ配信を通じて販売するモデルであり、将来的にはライバーや販売事業者への商材提供機能の拡張を見据えております。

これらのD2Xコマース領域を成長ドライバーと位置づけ、収益性の高い事業ポートフォリオへの転換を着実に進めております。現在は事業転換期にあり、自社ブランド及び「NETSEA MallLive」への先行投資を継続しているため、短期的には収益に影響を与えるものの、中長期的な成長に向けた基盤構築を優先しております。

※1 経済産業省2025年8月26日発表 電子商取引に関する市場調査、BtoB-EC市場規模の業種別内訳より推察

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は2,643,193千円(前中間連結会計期間比9.6%増)、営業損失は4,375千円(前中間連結会計期間は95,179千円の営業利益)、経常利益は31,678千円(前中間連結会計期間比74.1%減)、親会社株主に帰属する中間純損失は21,523千円(前中間連結会計期間は50,868千円の親会社株主に帰属する中間純利益)となりました。

また、2026年9月期より、インキュベーション事業として区分しておりました傲可凡(海南)网络科技有限公司及び傲可凡(義烏)進出口有限公司は、海外事業等の新規事業開発としての一定の検証・立ち上げフェーズが進捗したことを踏まえ、区分をプラットフォーム事業に変更しております。

そのため、前年同中間期比については、前中間連結会計期間の数値を報告セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(ソリューション事業)

当セグメントは、当社が保有するデータとAI技術を活用し、商品の価値を可視化・最適化することで、ECや副業に取り組むAppreciator(SmallB・個人事業主・インフルエンサーなど)を支援するソリューションサービスを提供しております。主なサービスとしては当社が保有する流通相場データを活用した『aucfan.com(オークファンドットコム)』であり、主たる収益源は有料課金収入及びネット広告収入となります。その他、EC事業者向けマーケティング支援サービス『aucfan marketing(オークファンマーケティング)』、ネットショップ一元管理サービス『タテンポガイド』、直感的に操作できるRPAツール『オークファンロボ』、副業支援サービス『good sellers(グッドセラーズ)』等を提供しています。

当中間連結会計期間においては、aucfan marketing(オークファンマーケティング)における広告運用サービス売上が好調に推移しました。一方でaucfan.com(オークファンドットコム)で2024年9月期に実施した会員機能強化に伴う価格改定後の影響により、前年は通期にわたり課金売上の水準が底上げされていたことから、その反動により当中間連結会計期間における課金売上は減少しました。

これらの結果、売上高1,473,862千円(前中間連結会計期間比3.0%増)、営業利益333,321千円(前中間連結会計期間比0.8%減)となりました。

(プラットフォーム事業)

当セグメントは、商品供給力を強みに、国内外において商品流通支援サービスを提供しており、オンライン及びオフラインで複数のマーケットプレイスを運営しております。主なサービスとしては、BtoB卸モール『NETSEA(ネッシー)』、オフラインの展示・商談会事業『OSR(オーエスアール)展示商談会』、中国生産商品の自社ブランド、ライブコマースサービス『NETSEA MallLive』等がございます。自社ブランドにおいては、「AP LAB(エーピーラボ)」に加え、ファッションカテゴリに特化した「KACHIKA(カチカ)」を展開しております。主たる収益源は、NETSEAにおける流通手数料収入及び有料課金収入、自社ブランド及びNETSEA MallLiveにおける商品販売収入、OSRにおける決済手数料収入及び出店料となります。

当中間連結会計期間においては、NETSEA及びOSRでは、コスト効率化に加え一時的な需要の増加もあり収益性が改善し、利益を押し上げる要因となりました。一方で、滞留在庫・返品・型落ち品等の流動化支援を行う「NETSEAオークション」を2025年3月にサービス終了したことから、前中間連結会計期間に計上されていた同サービスに係る売上が当中間連結会計期間には発生しておりません。

また、自社ブランド「AP LAB」の売上は引き続き成長しており、これに加え、ファッションカテゴリに特化した自社ブランド「KACHIKA」においても売上が拡大しております。これらの自社ブランドに関しては、商品販売開始時に一定の初期コストが発生することから、販売費及び一般管理費が増加しております。ライブコマースサービス「NETSEA MallLive」においても先行投資を継続しており、販売費及び一般管理費が増加しております。

これらの結果、売上高1,198,302千円(前中間連結会計期間比46.1%増)、営業損失120,292千円(前中間連結会計期間は80,481千円の営業損失)となりました。

(インキュベーション事業)

当セグメントは、事業投資及び投資先企業の支援を通じて、当社が中長期的に競合優位性を構築・維持するための知見とネットワークを得ることを目的としております。主たる収益源は、営業投資有価証券の売却益・配当収益、投資先企業へのコンサルティング収益であり、あわせて新規事業開発にも取り組んでおります。

当中間連結会計期間においては、営業投資有価証券の売却収入等があったものの、前年同期水準には至りませんでした。

これらの結果、売上高26,889千円(前中間連結会計期間比88.3%減)、営業損失30,933千円(前中間連結会計期間は31,558千円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産は、7,192,959千円(前連結会計年度末は7,084,468千円)となりました。

流動資産は、6,344,706千円(前連結会計年度末は5,922,231千円)となりました。主な変動要因といたしましては、現金及び預金が150,016千円減少したものの、商品が346,502千円増加、その他(流動資産)が133,734千円増加、売掛金が88,403千円増加した結果であります。

固定資産は、848,253千円(前連結会計年度末は1,162,236千円)となりました。主な変動要因といたしましては、投資有価証券が297,511千円減少、ソフトウェアが24,977千円減少した結果であります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は、3,144,105千円(前連結会計年度末は2,991,846千円)となりました。

流動負債は、3,097,530千円(前連結会計年度末は2,945,689千円)となりました。主な変動要因といたしましては、未払金が136,725千円増加、未払法人税等が49,577千円増加した結果であります。

固定負債は、46,575千円(前連結会計年度末は46,157千円)となりました。主な変動要因といたしましては、繰延税金負債が460千円減少したものの、その他(固定負債)が879千円増加した結果であります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は、4,048,853千円(前連結会計年度末は4,092,621千円)となりました。主な変動要因といたしましては、資本剰余金が92,875千円増加したものの、利益剰余金が98,972千円減少、その他有価証券評価差額金が25,267千円減少した結果であります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末より155,232千円減少し、3,635,335千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

減価償却費141,656千円、未払金の増加額135,148千円などにより資金が増加した一方で、棚卸資産の増加額348,175千円、その他の流動資産の増加額229,258千円などにより資金が減少したため、営業活動の結果使用した資金は330,058千円(前中間連結会計期間は249,973千円の獲得)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

無形固定資産の取得による支出102,082千円などにより資金が減少した一方で、投資有価証券の売却による収入311,136千円などにより資金が増加したため、投資活動の結果獲得した資金は186,787千円(前中間連結会計期間は115,523千円の使用)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入れによる収入310,000千円、非支配株主からの払込みによる収入15,427千円により資金が増加した一方で、短期借入金の返済による支出330,000千円などにより資金が減少したため、財務活動の結果使用した資金は4,977千円(前中間連結会計期間は259,721千円の使用)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の連結業績予想については、2025年11月14日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

なお、業績予想は、同資料の発表日現在において、入手可能な事実情報、及び現時点で判明している当社業績への直接的影響に基づき作成しております。今後の状況や市場環境の変化によって当社業績への影響の範囲が大きく変動した場合等、その時点での合理的な算出により業績予想に変更が生じる場合は速やかに公表いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,785,352	3,635,335
売掛金	372,537	460,941
営業投資有価証券	872,222	814,519
商品	127,267	473,769
仕掛品	869	1,357
貯蔵品	3,473	2,151
未収入金	596,831	662,790
その他	239,052	372,787
貸倒引当金	△75,375	△78,946
流動資産合計	5,922,231	6,344,706
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	62,471	59,831
工具、器具及び備品 (純額)	39,929	55,169
その他 (純額)	2,456	2,565
有形固定資産合計	104,857	117,566
無形固定資産		
のれん	994	—
ソフトウェア	346,842	321,864
ソフトウェア仮勘定	35,356	36,711
その他	1,587	1,628
無形固定資産合計	384,782	360,205
投資その他の資産		
投資有価証券	297,511	—
繰延税金資産	57,406	69,026
破産更生債権等	298,303	298,303
長期未収入金	276,286	254,726
その他	317,539	301,376
貸倒引当金	△574,450	△552,950
投資その他の資産合計	672,596	370,481
固定資産合計	1,162,236	848,253
資産合計	7,084,468	7,192,959

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年9月30日)	当中間連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,174	71,414
短期借入金	1,300,000	1,280,000
未払法人税等	13,751	63,329
未払金	1,400,486	1,537,212
契約負債	83,407	76,889
賞与引当金	3,400	4,300
株主優待引当金	20,000	—
その他	78,469	64,383
流動負債合計	2,945,689	3,097,530
固定負債		
繰延税金負債	460	—
その他	45,696	46,575
固定負債合計	46,157	46,575
負債合計	2,991,846	3,144,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	973,683	973,683
資本剰余金	839,851	932,727
利益剰余金	2,239,929	2,140,957
自己株式	△184,880	△184,880
株主資本合計	3,868,584	3,862,488
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221,058	195,791
為替換算調整勘定	2,977	△9,426
その他の包括利益累計額合計	224,036	186,365
純資産合計	4,092,621	4,048,853
負債純資産合計	7,084,468	7,192,959

(2) 中間連結損益及び包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
売上高	2,412,048	2,643,193
売上原価	1,198,619	1,272,053
売上総利益	1,213,429	1,371,139
販売費及び一般管理費	1,118,249	1,375,515
営業利益又は営業損失 (△)	95,179	△4,375
営業外収益		
受取利息	2,091	8,201
為替差益	26,832	9,981
営業債務消滅益	6,156	—
投資有価証券売却益	—	23,610
その他	2,214	2,944
営業外収益合計	37,294	44,738
営業外費用		
支払利息	6,841	7,510
控除対象外消費税等	268	172
その他	3,072	1,000
営業外費用合計	10,183	8,684
経常利益	122,290	31,678
特別利益		
その他	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
事業撤退損	14,208	—
特別損失合計	14,208	—
税金等調整前中間純利益	108,081	31,678
法人税、住民税及び事業税	29,906	55,144
法人税等調整額	27,306	△1,943
法人税等合計	57,213	53,201
中間純利益又は中間純損失 (△)	50,868	△21,523
(内訳)		
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失 (△)	50,868	△21,523
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△86,269	△25,267
為替換算調整勘定	△3,016	△12,403
その他の包括利益合計	△89,285	△37,671
中間包括利益	△38,417	△59,194
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△38,417	△59,194

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	108,081	31,678
減価償却費	126,711	141,656
のれん償却額	1,989	994
株式報酬費用	5,430	10,860
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△19,248	△17,928
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△18,000	△20,000
受取利息及び受取配当金	△2,091	△8,201
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△23,610
支払利息	6,841	7,510
事業撤退損	14,208	—
売上債権の増減額(△は増加)	82,448	△88,394
営業投資有価証券の増減額(△は増加)	29,375	27,068
棚卸資産の増減額(△は増加)	△40,885	△348,175
長期未収入金の増減額(△は増加)	17,800	21,560
仕入債務の増減額(△は減少)	61,825	22,539
未払金の増減額(△は減少)	29,820	135,148
その他の流動資産の増減額(△は増加)	34,072	△229,258
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△67,349	△23,027
その他	△20,985	9,042
小計	350,045	△350,540
利息及び配当金の受取額	1,930	9,747
利息の支払額	△6,695	△7,886
事業撤退損の支払額	△8,378	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△86,928	18,621
営業活動によるキャッシュ・フロー	249,973	△330,058
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の売却による収入	—	311,136
貸付金の回収による収入	4,152	4,152
有形固定資産の取得による支出	△9,178	△28,836
無形固定資産の取得による支出	△113,297	△102,082
差入保証金の回収による収入	—	1,117
預り保証金の受入による収入	5,650	4,500
預り保証金の返還による支出	△2,850	△3,200
その他	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△115,523	186,787
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	480,000	310,000
短期借入金の返済による支出	△640,000	△330,000
長期借入金の返済による支出	△66,680	—
リース債務の返済による支出	△388	△404
自己株式の取得による支出	△34,756	—
非支配株主からの払込みによる収入	2,104	15,427
財務活動によるキャッシュ・フロー	△259,721	△4,977
現金及び現金同等物に係る換算差額	23,145	△6,984
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△102,125	△155,232
現金及び現金同等物の期首残高	4,497,678	3,790,567
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,395,553	3,635,335

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間連結損益 及び包括利益 計算書計上額 (注)2
	ソリュー ション	プラット フォーム	インキュ ベーション	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,377,049	804,687	230,311	2,412,048	—	2,412,048
セグメント間の内部売上高 又は振替高	53,863	15,619	—	69,482	△69,482	—
計	1,430,912	820,306	230,311	2,481,530	△69,482	2,412,048
セグメント利益又は損失(△)	335,945	△80,481	31,558	287,022	△191,842	95,179

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△191,842千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	中間連結損益 及び包括利益 計算書計上額 (注)2
	ソリュー ション	プラット フォーム	インキュ ベーション	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,425,992	1,190,311	26,889	2,643,193	—	2,643,193
セグメント間の内部売上高 又は振替高	47,869	7,991	—	55,860	△55,860	—
計	1,473,862	1,198,302	26,889	2,699,054	△55,860	2,643,193
セグメント利益又は損失(△)	333,321	△120,292	△30,933	182,095	△186,471	△4,375

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△186,471千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益及び包括利益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当中間連結会計期間より、海外事業等の新規事業開発としての一定の検証・立ち上げフェーズが進捗したことを踏まえ、一部の部門の帰属セグメントに変更が生じたため、新たなセグメント情報の数値を記載しております。そのため、前中間連結会計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

詳細は、「1. 当中間決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」に記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。